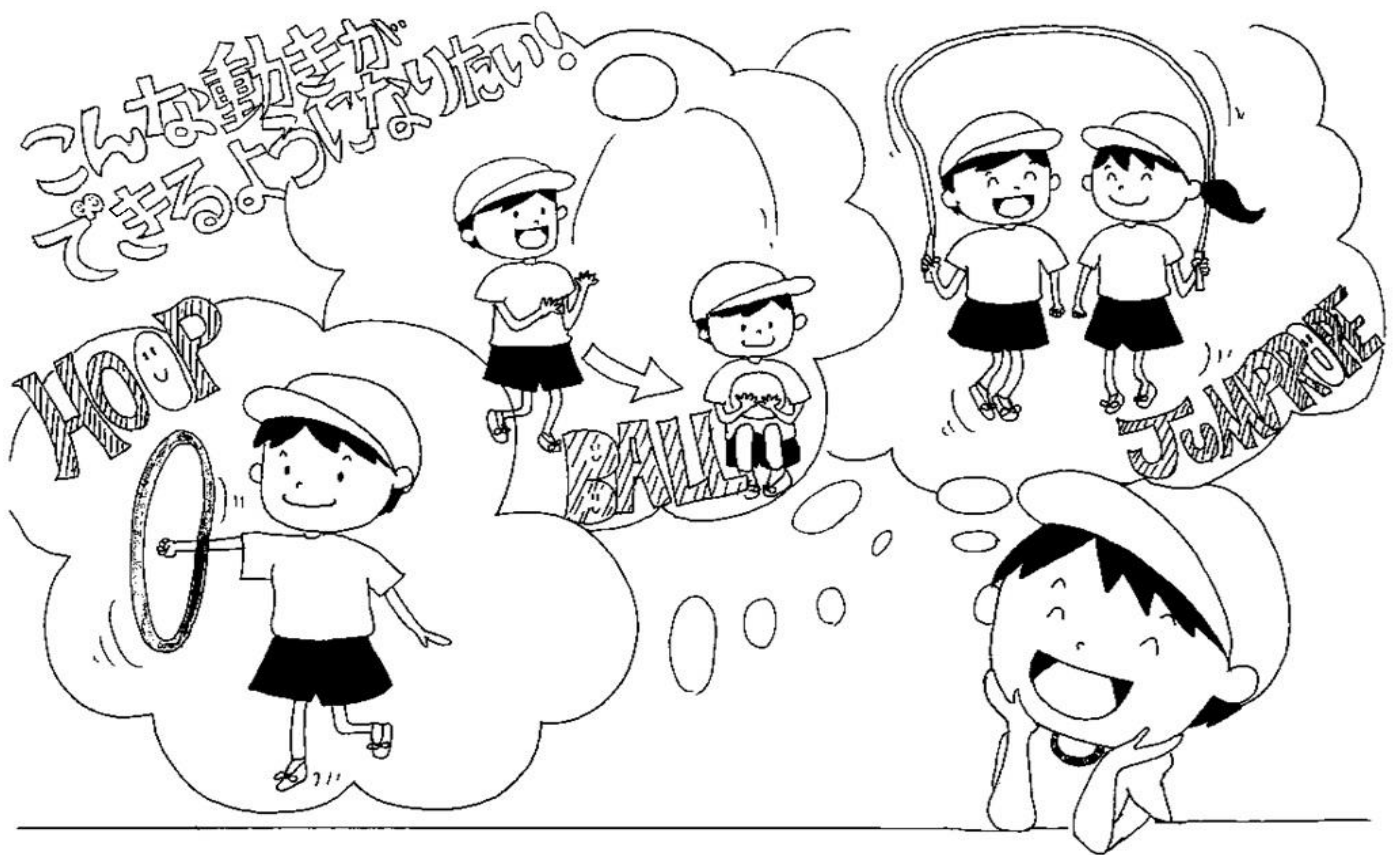


令和元年度 東京都小学校体育研究会 実証授業
多様な動きをつくる運動（遊び）領域部会

東京都小学校体育研究会 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に
主体的・協働的に取り組む児童の育成」



HPはこちら→



【本日の講師】

杉並区立高井戸東小学校
副校長

鈴木 壮平 先生

【実証授業】

授業日 令和元年 10月 15日（火）
場 所 墨田区立業平小学校
（最寄駅：押上駅）
授 業 第4学年 体づくり運動
「多様な動きをつくる運動」
授業者 森田 慎 教諭

今年度の多様部会の研究はコレです！



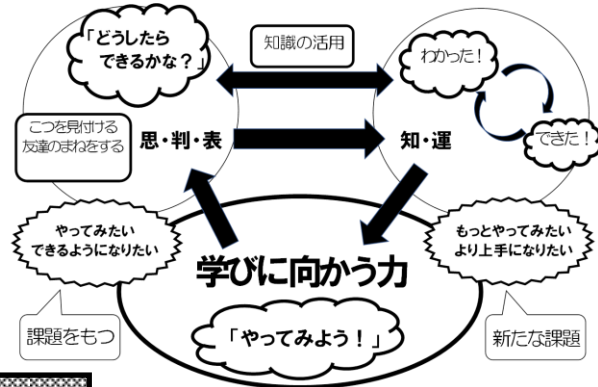
研究構想・主題について

➡ P1～5へ

視点1 具体的な学習状況

三つの資質・能力の具体的な学習状況		
知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
楽しい運動遊びと出会い、体の基本的な動きができる	試行錯誤を繰り返し、課題を解決するために友達と関わり、伝え合う	いつでもどこでも誰とでも、楽しく運動し、前向きに学習に取り組む
第2学年 ボールを落とさないで捕ることができたよ。	どうやってやるとうまくいくのかな？	やってみたい！友達とも一緒にやりたいな！
第3学年 投げ上げたボールを移動しながら捕ることができたよ。	「こつは何？教えて？」 「こつやるんだよ。」	もっとうまくできるようになりたい！みんなでやると楽しいね。

視点2 三つの資質・能力の関係性



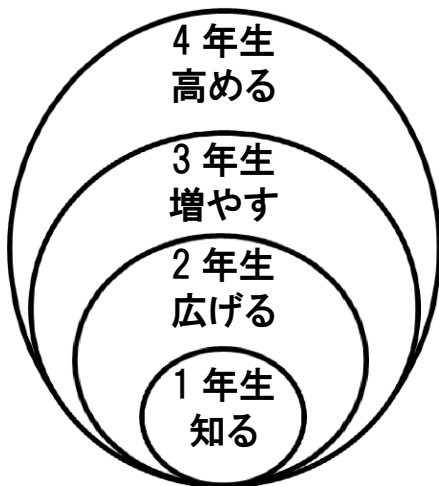
学びに向かう力から始めよう！



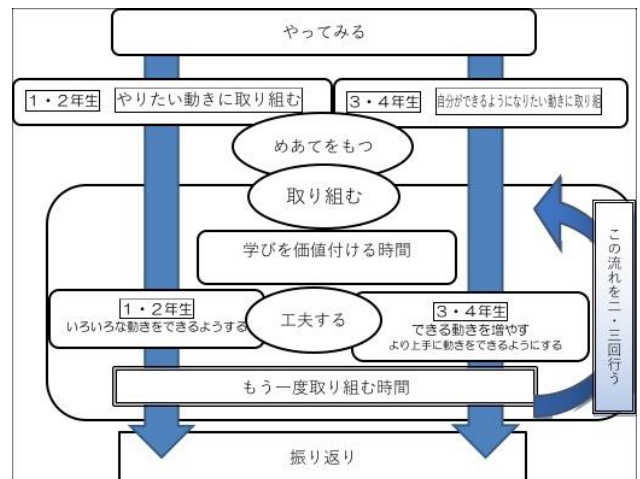
主体的・協働的な学習を促す指導計画の手だて

➡ P6～7へ

①4年間のねらいの重点化 → P.6



③一単位時間の学習の流れ → P.6～7

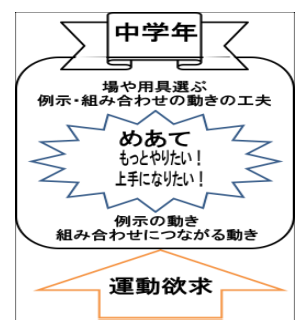
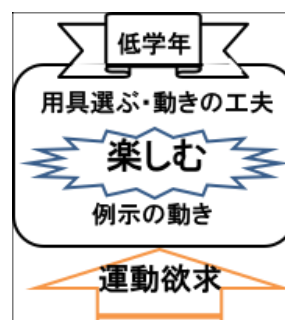


②各学年の年間計画 → P.6

○ 発達段階に合わせて楽しく取り組む

✕ トレーニング

どの学年も用具の操作・組み合わせを学習の後半に扱い、指導の重点を図る。





今年度の重点

～指導と評価の一体化を
図るための手だて～



P8～11へ

今年度の見所！ゴールイメージと評価！！

終盤(18/18時)

4年生としてのゴールイメージ！（フープ・ボール・なわ）
教師の授業改善と児童の学習改善を促すための評価のあり方

『多様な動きをつくる運動のラスト』
児童の学習改善を促す教師のアプローチとは？

『三つの資質・能力を育むための指導と評価』についての考え方

・指導と評価は一体

形成的評価や動きの見取りが、教師の授業改善・児童の学習改善につながる。

- ・粘り強く学習に取り組む態度、自ら学習を調整しようとする態度を中心に単元を展開
「学びに向かう力」を「思考力、判断力、表現力等」を働かせながら運動することで、結果として
「知識及び運動」が高まっていく。以下は、そのための手だてである。

① 「学びを価値付ける時間」 → P.8～9

動きこつや行い方・価値づけ
したい姿・学び方を価値付け、
共有する時間。



② 「教師の言葉掛け」 → P.10

児童の意欲の持続・自らの課題
の修正・関わり合いの活性化を
促す。



③ 「学習カードを活用した振り返りの充実」 → P.11

ねらいを明確にした発問と
意図的なコメントにより、
児童の学びを方向付ける。

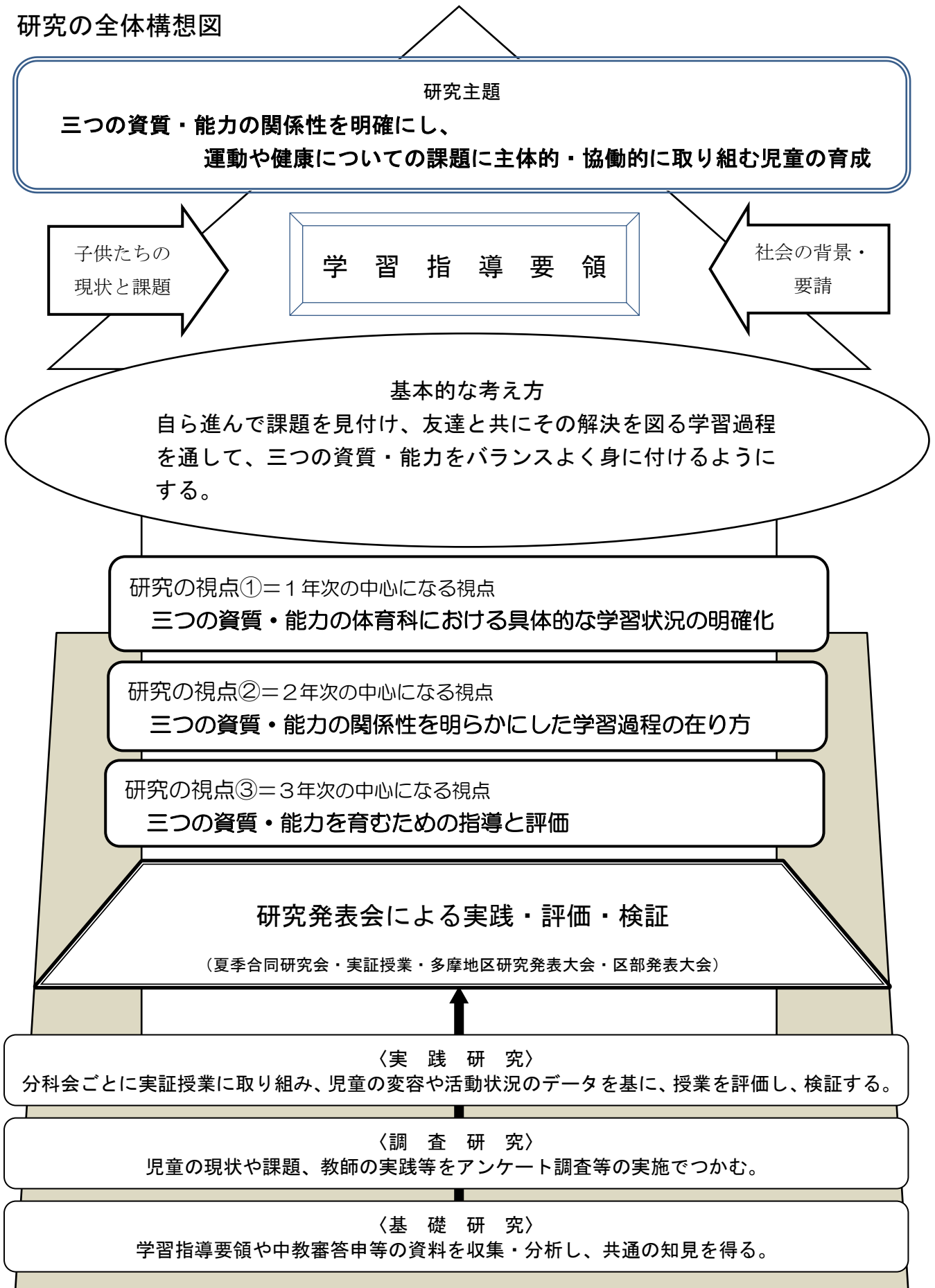


授業のペースをつくるための手だて



P12～13へ

研究の全体構想図



1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に
主体的・協働的に取り組む児童の育成」

多様な動きをつくる運動（遊び）部会

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

学習指導要領総則より、「三つの資質・能力」は児童がもともと持っているものと捉えている。その中の、「他の二つの資質・能力をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素」と記載がある「学びに向かう力,人間性等」に着目して研究を進めてきた。多様な動きをつくる運動（遊び）のねらいである「楽しく基本的な動きを身に付けさせる」ためには、児童一人一人の「やってみよう」という運動欲求に火をつけ、「もっとやってみよう」と意欲を持続させていくことが多様な動きを身に付けることにつながると考えているからである。体育科においては、「学びに向かう力,人間性等」すなわち「主体的に学習に取り組む態度等」を中心に、他の二つの資質・能力と互いに結び付け合いながら、これら三つの資質・能力を膨らませ、育んでいきたいと考える。

3 研究の視点

新学習指導要領の全面実施までの移行措置期間に当たる時期となるため本研究主題を3か年間継続し、以下の視点によって年次を追って研究を進めて行くこととする。

(1) 研究の視点1 = 1年次の中心となる視点

- 三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）

(2) 研究の視点2 = 2年次の中心となる視点

- 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上で、その学習過程の在り方

(3) 研究の視点3 = 3年次の中心となる視点

- 三つの資質・能力を育むための指導と評価

4 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

本部会では、「学びに向かう力,人間性等」に着目して研究を進めてきた。本領域のねらいである「楽しく基本的な動きを身に付けさせる」ためには、児童一人一人の「やってみよう」という運動欲求に火をつけ、「もっとやってみよう」と意欲を持続させていくことが基本的な動きを身に付けることにつながると考えている。本部会においては、「主体的に学習に取り組む態度等」を中心に、他の二つの資質・能力と互いに結び付け合いながら、それらを膨らませ、育んでいきたいと考える。

5 研究内容の概要



(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

「学びに向かう力,人間性等」を中心に、三つの資質・能力を互いに結び付け合いながら膨らませ、バランスよく育てていきたいと考える。児童が多様な動きを身に付けていくためには、運動(遊び)のもつ楽しさを十分味わうことが大切である。運動(遊び)との出会いを大切に、児童の「やってみたい」という運動欲求に火をつけ、「もっとやってみたい」と意欲を持続させていくことが、多様な動きを身に付けることにつながっていくと考える。

以上のことを踏まえ、一昨年度実証授業を行った第2学年及び第3学年における、三つの資質・能力の具体的な学習状況を上図のように整理した。

さらに具体的な児童の姿を右頁の表にまとめた。

なお、下線部分の記載は昨年度の研究経過を経て、部会として追記した児童の姿である。

三つの資質・能力の具体的な学習状況		
知識及び運動	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
楽しい運動(遊び)と出会い、体の基本的な動きができる	試行錯誤を繰り返し、課題を解決するために友達と関わり、伝え合う	いつでもどこでも誰とでも、楽しく運動し、前向きに学習に取り組む
第2学年 ボールを落とさないで捕ることができたよ。	どうやってやるとうまくいくのかな？	やってみたい！友達とも一緒にやりたいな！ 
第3学年 投げ上げたボールを移動しながら捕ることができたよ。	「こつは何？教えて？」 「こうやるんだよ。」	もっとうまくできるようになりたい！みんなで作ると楽しいね。 

◎三つの資質・能力の具体的な学習状況

<第2学年「多様な動きをつくる運動遊び」>

	「児童の学びの姿」
知識及び運動	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な動きをつくる運動遊びの楽しい行い方を知る。 ○多様な動きをつくる運動遊びの楽しい行い方が分かる。 ○運動遊びに楽しく取り組んで経験した結果として、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きができる。
思考力,判断力,表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の感想や気付きを聞いたり、友達の動きを見たりして、できそう楽しい運動遊びや友達と一緒にやると楽しい運動遊びを選んでいる。 ○様々な種類の用具の中から自分なりに操作しやすいものや、楽しく動くことができる運動遊びを選んでいる。 ○友達の動きを見て、見付けたよい動きや、行ってみたいと感じた運動遊びの行い方を友達に伝えている。 ○用具の種類を変えたり、様々な動き方を試したりして選んだ行い方を動作を交えながら友達に伝えている。
学びに向かう力,人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ○順番やきまりを守り、「いつでもどこでも誰とでも」仲よく運動しようとしている。 ○友達と協力して用具の準備・片付けをしようとしている。 ○友達の考えや取組を認めようとしている。 ○危険物が無いか、友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの場の安全に気を付けようとしている。

<第3学年「多様な動きをつくる運動」>

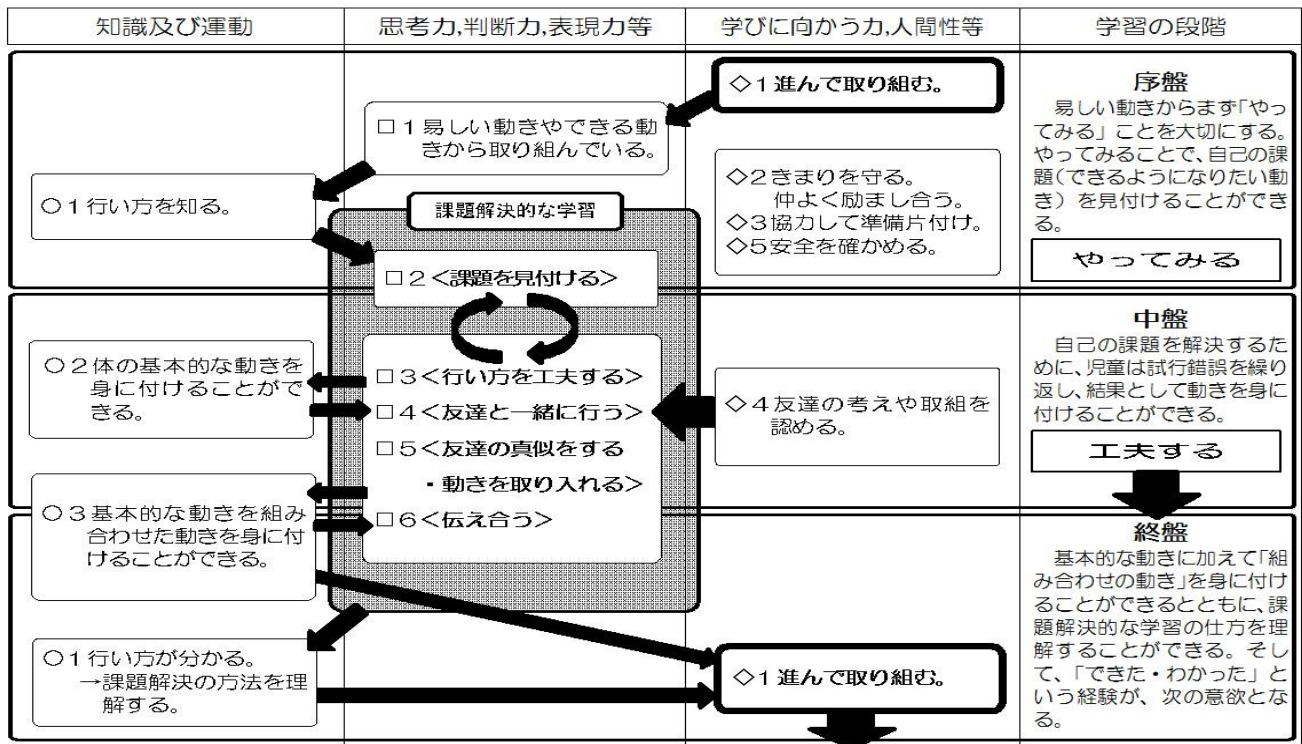
	「児童の学びの姿」
知識及び運動	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な動きをつくる運動の楽しい行い方を知る。 ○多様な動きをつくる運動の楽しい行い方が分かる。 ○楽しく運動に取り組んだ結果として、体の基本的な動きやそれらを組み合わせた動き、各種の運動の基礎となる動きができる。 ○楽しく運動に取り組んだ結果として、ダイナミックな動きや移動の仕方を工夫する動きができる。
思考力,判断力,表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ○用具操作の仕方や行う人数など、より楽しく運動ができる、様々な動きを身に付けることができる行い方を選んでいる。 ○基本的な動きを身に付けたり、高めたりするために友達の運動の行い方を比べるなどして、自己の課題を見付けている。 ○これまでに行った運動の中から、更に行ってみたい運動を選び、人数や用具などの条件を変え、新たな運動の行い方を選んでいる。 ○友達と声を出して動きを合わせるなど、リズムやタイミングを合わせる行い方を選んでいる。 ○友達の行い方をまねしたり、それを修正したりしながら、自己に適した動き方を選んでいる。 ○これまでの学習で経験した運動の中から、みんなで行うと楽しくなる運動とこつを友達に紹介している。
学びに向かう力,人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な動きをつくる運動に進んで取り組もうとしている。 ○きまりを守り、「いつでもどこでも誰とでも」励まし合って運動しようとしている。 ○友達と協力して用具の準備・片付けをしようとしている。 ○友達の考えや取組を認めようとしている。 ○運動をする場や用具の安全性を確かめようとしている。

(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」についての考え方

一昨年度明らかにしたこれらの学習状況を踏まえ、昨年度は、三つの資質・能力の関係性を学習過程の中で示すことにした(表①、②)。今年度は、三つの資質・能力をバランスよく育むために、単元の序盤・中盤・終盤における課題解決の手だてとして、「学びを価値付ける時間」や「振り返り」の充実を二本柱として、教師の働き掛けについて研究した。

単元の序盤は「やってみる」、単元の中盤から終盤にかけては「工夫する」という段階とし、結果基本的な動きを身に付けられるようにするとともに、課題解決的な学習の仕方を理解することができる児童の姿を目指した。

三つの資質・能力の関係性を明確にする(多様な動きをつくる運動・第3・4学年における考え方)



②三つの資質・能力の関係性を明らかにした上での学習過程(第3学年のフープを使った単元を例に)

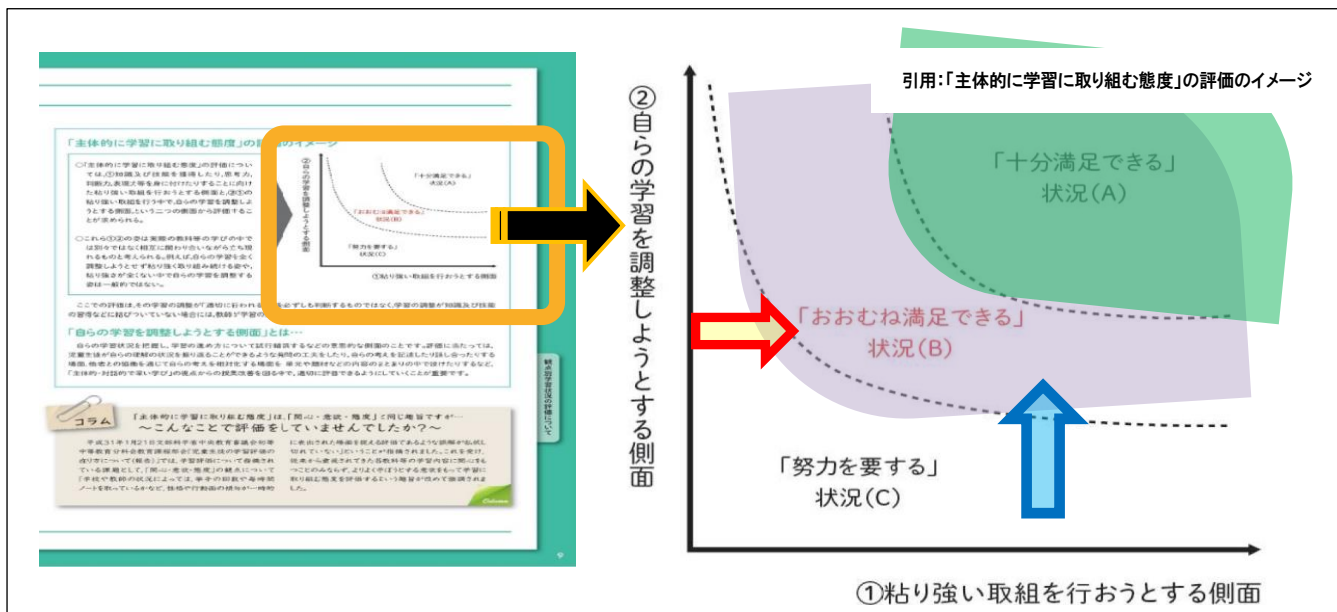
時間	段階	児童の学びの姿			学習内容・活動
		知識及び運動	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等	
1	序盤(やってみる)	○1 多様な動きをつくる運動の行い方を知る。	<input type="checkbox"/> 1 易しい動きやできる動きから取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 2 課題を見付ける	<input checked="" type="checkbox"/> 1 進んで取り組もうとしている。 <input type="checkbox"/> 2 きまりを守る。仲よく励まし合う。 <input type="checkbox"/> 3 協力して準備片付けをする。 <input type="checkbox"/> 5 安全を確かめる。	<input type="checkbox"/> やってみる ・回す・転がす ・投げる、捕る <input checked="" type="checkbox"/> 学びを価値付ける時間 ・よい動き ・動きのこつ
2			<input type="checkbox"/> 3 行い方を工夫する	<input type="checkbox"/> 4 友達の考えや取組を認めようとしている。	<input type="checkbox"/> やってみる ・回す・転がす <input checked="" type="checkbox"/> 学びを価値付ける時間 ・回す+移動 ・転がす+移動 ・組み合わせのこつ
3	中盤(工夫する)	○2 体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。 ○3 基本的な動きを組み合わせた動き、主に移動の仕方を工夫する動きを身に付けることができる。 ○1 行い方が分かる。→課題解決の方法を理解する。	<input type="checkbox"/> 4 友達と一緒に行う <input type="checkbox"/> 5 友達の真似をする動きを取り入れる		<input type="checkbox"/> 回す+移動の動きに取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 学びを価値付ける時間 ・行い方 ・動きのこつ ・学び方
4			<input type="checkbox"/> 6 伝え合う ・学びを価値付ける時間 ・振り返り ・学習カード		<input type="checkbox"/> 回す+移動の動きに取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 学びを価値付ける時間 ・行い方 ・動きのこつ ・学び方
5	終盤(工夫する)			<input checked="" type="checkbox"/> 1 進んで取り組もうとしている。	<input type="checkbox"/> 行いたい動きを選択する ・回す+移動コーナー ・転がす+移動コーナー <input checked="" type="checkbox"/> 学びを価値付ける時間 ・行い方 ・動きのこつ ・学び方

(3) 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

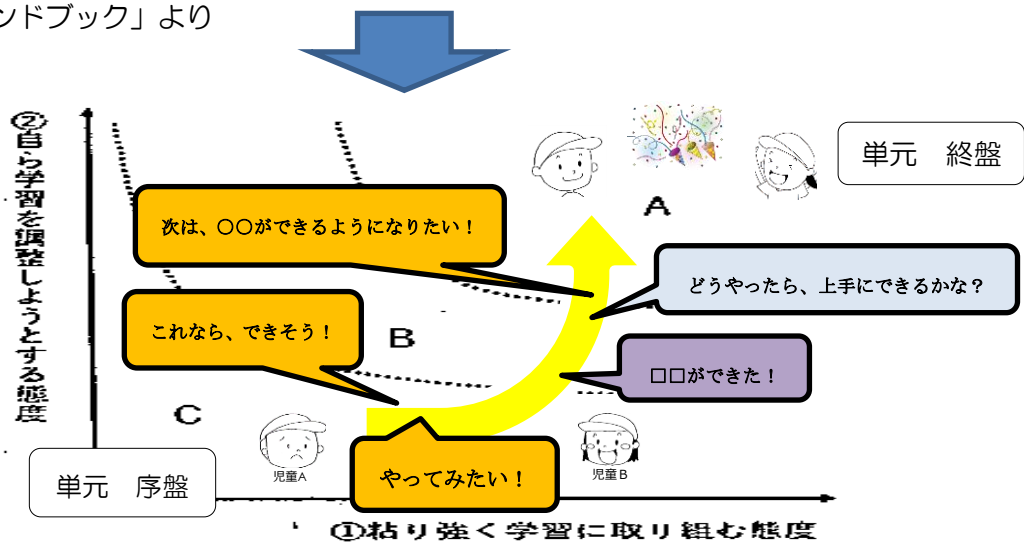
「学習評価の在り方ハンドブック」(国立教育政策研究所 令和元年6月)によると、学習評価は、児童生徒の学習評価を評価するものであり、児童にどういった力が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするとある。

そこで、本部会では指導と評価は一体であるとの考え方から、評価を次の指導に生かすために、毎時間の児童の形成的評価や動きの表出を見取ることが大切であると考え。児童の学習改善のために、自己の課題の見直しを促し、学習カードを通して学び方の改善を促す。教師の授業改善のために児童の実態を見取り、ねらいや価値付けの内容を修正し、次時へ向けてどのように手だてを行っていくのか考えることが大切である。

また、本部会では「学びに向かう力」を中心に三つの資質・能力を結び付け合いながら膨らませ、バランスよく育むことで、児童が体の基本的な動きを身に付け、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。そのため、「学びに向かう力(主体的に学習に取り組む態度)」を育むための単元のイメージを示した。



「学習評価の在り方ハンドブック」より



(図 「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ)

単元の序盤で児童の実態を把握し、横軸の「粘り強く学習に取り組む態度」と縦軸の「自ら学習を調整しようとする態度」の双方を大切にしながら単元を進め、終盤に向けて引き上げていく。運動の技能に関わらず、何回も取り組んだり、自らの学習を振り返り、自己評価したりできる力を、低学年から意図的に涵養していくことを大切に考えている。このように「学びに向かう力(主体的に学習に取り組む態度)」を中心に単元を展開し、「思考力、判断力、表現力等」を働かせながら運動することで、結果として「知識及び運動」が高まっていくと考える。

6 研究主題に迫るための手だて

(1) 主体的・協働的な学習を促す指導計画の手だて

① 4年間のねらいの重点化

多様な動きをつくる運動（遊び）のねらいは、多様な動きを楽しく経験しながら基本的な動きを身に付けることである。どの学年においても児童の運動欲求に火をつけ、思考力、判断力、表現力を耕しながら多様な動きを経験していくことで三つの資質・能力をバランスよく育み、結果として基本的な動きが身に付くことを目指していく。学年ごとにねらいを重点化し、段階的に動きを身に付けるようにする。

学年	段階	ねらい
1年	知る	「やってみよう」という運動欲求に火をつけることを大切に、学習指導要領解説に例示されている多様な動きを楽しく経験する。
2年	広げる	場や用具を選んだり、経験した動きやできるようになった動きの行い方を工夫したりして楽しく動きを広げる。
3年	増やす	第3学年から新たに例示されている動きや経験してできる動きを増やしていく。さらに基本的な動きを組み合わせる運動を経験して、できる動きを増やす。
4年	高める	基本的な動きを組み合わせた動きを身に付け、動きをさらになめらかにしたり、行い方を工夫したりしながら、動きの質を高める。

② 各学年の年間計画例

低学年の発達の段階では、まずはやってみようという児童の運動欲求を大切に、学習指導要領解説に例示されている動きを楽しみながら経験できるようにする。その際、できるまで繰り返し行うトレーニング的な学習にならないようにする。次に場や用具を選んで運動したり、動きを工夫したりしながら基本的な動きが身に付いていくようにする。その経験が中学年の動きの組み合わせにつながっていく。

中学年では、組み合わせにつながる動きをより多く扱っていくことが大切である。第4学年では、「多様な動きをつくる運動」のゴールと捉え、自分をもっとやりたい動きや上手になりたい動きなど、自分のめあてをもって取り組むことで高学年における体力を高める運動へつなげていく。

どの学年も行い方の工夫を行いやすい用具を操作する運動（遊び）や基本的な動きを組み合わせる運動を学習の後半に扱い、指導の重点を図るようにする。

【第1・2学年の単元計画例】

段階時	や	や→工夫	や→工夫	や→工夫	や→工夫
	1・2	3～7	8～11	12～17	18～22
学習内容	体ほぐしの運動遊び	○体のバランスをとる運動遊び	○用具を操作する運動遊び「ボール」	○力試しの運動遊び	○体を移動する運動遊び
		○用具を操作する運動遊び			
		「ボール」 投げる・捕る	「竹馬」 補助付きで乗る	「長なわ」	「フープ」 回す・転がす
					「短なわ」 跳ぶ

【第3学年の単元計画例】

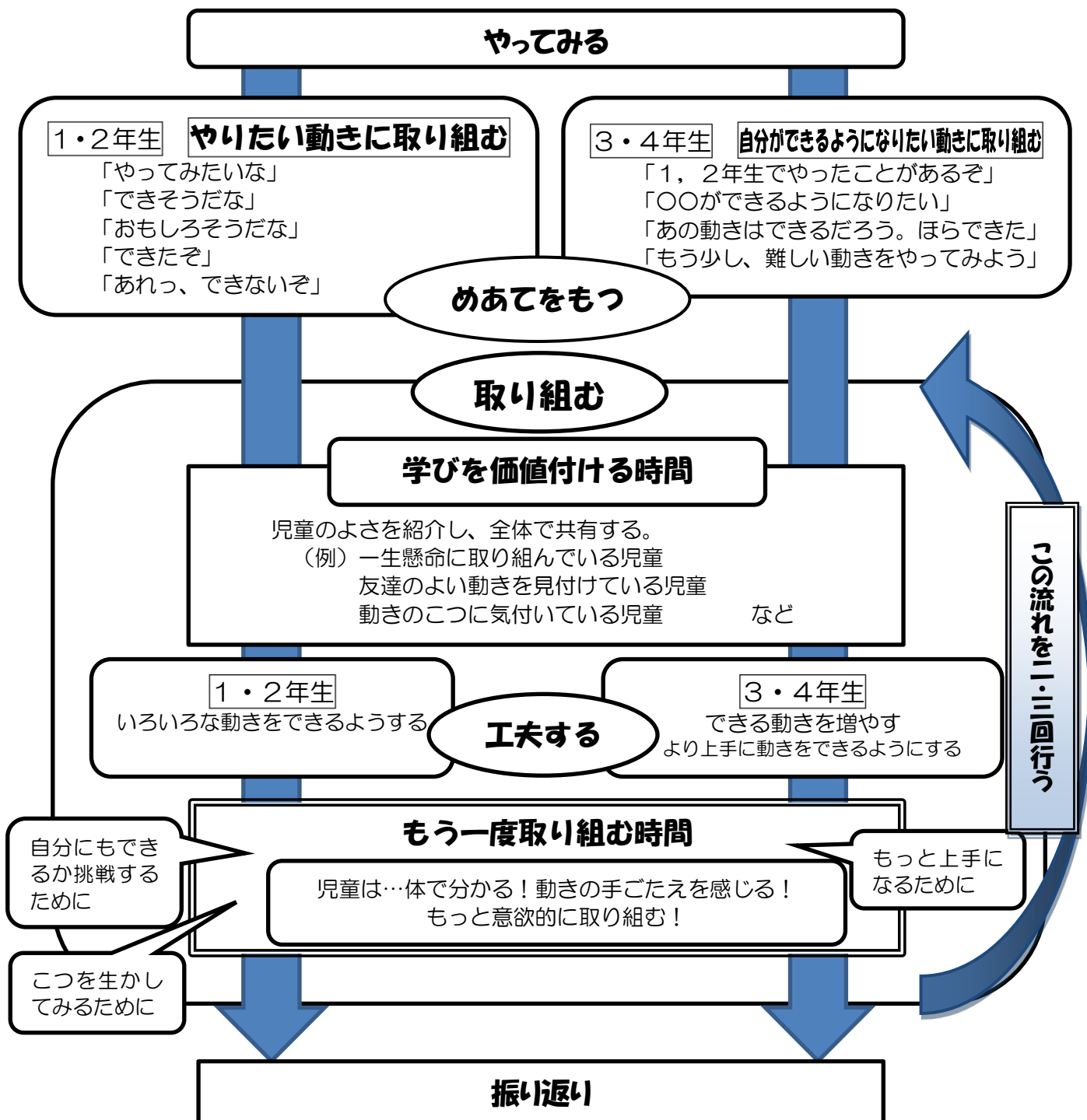
段階時	や	や→工夫	や→工夫	や→工夫	や→工夫
	1・2	3～6	7～10	11～14	15～18
学習内容	体ほぐしの運動	○体を移動する運動	○力試しの運動	○体のバランスをとる運動	○体を移動する運動
		○用具を操作する運動 ○基本的な動きを組み合わせる運動			
		竹馬一輪車 Gボール	「長なわ」	「ボール」	「短なわ」
					「フープ」

【第4学年の単元計画例】

段階時	や	や→工夫	や→工夫	や→工夫	工夫
	1・2	3～8	9～12	13～16	17・18
学習内容	体ほぐしの運動	○体を移動する運動	○体のバランスをとる運動	○力試しの運動	○バランス移動
		○用具を操作する運動 ○基本的な動きを組み合わせる運動			
		竹馬一輪車 Gボール	「ボール」	「フープ」	「短なわ・長なわ」
					「ボール」「フープ」 「短なわ」「長なわ」

③一単位時間の学習の流れ

行い方を工夫しやすく、楽しみ方の種類が多い「用具を操作する運動（遊び）」や「基本的な動きを組み合わせる運動」を一単位時間の後半に位置付け、課題解決を十分に図ることができるように単元を構成した。一単位時間の後半部分（概ね 25～30 分間程度）の学習の流れを次のように構築した。

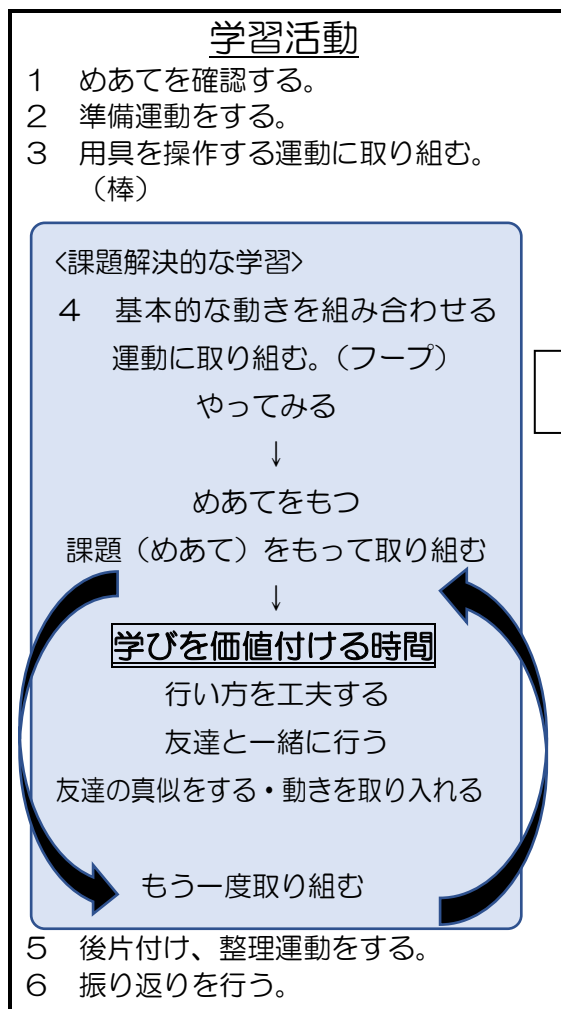


1・2年生の児童は、初めて出会う運動遊びに「やってみたい！」という思いをもち、様々な運動遊びを通して、基本的な動きを身に付けていく。3・4年生の児童は、1・2年生の経験をもとに、「〇〇ができるようになりたい」という自分のめあてをもち、試行錯誤しながら課題を解決し、基本的な動きを身に付けていく。

(2) 指導と評価の一体化を図るための手だて (本年度の重点)

① 学びを価値付ける時間

動きや行い方だけでなく、価値付けしたい姿 (学びに向かう力, 人間性等や思考力, 判断力, 表現力等にかかわることも含む) も価値付け、児童が主体的・協働的に学ぶ力を育むために「学びを価値付ける時間」を設定した。単元の序盤では「学びに向かう力、人間性」等を、中盤では「思考力、判断力、表現力等」を、終盤では「知識及び運動」に焦点を当てて、一単位時間のねらいに基づいた児童の姿を共有し、学級全体の学びとして価値付けていく。



「学びを価値付ける時間」について

一単位時間のねらいに基づいた児童の姿を取り上げ、共有する時間 (段階によって取り上げる内容は変わる。)

「動きのこつ」
どうやったらできたのかという体の動かし方。

「行い方の工夫」
動きのレパートリー (種類) やバリエーション。
(姿勢、方向、人数、リズム、移動などの変化)

「価値付けしたい姿」(学び方)
学びに関わること全般。
共生の素地。(伝え合い)

○児童の思考を促すための発問
例: 「どうやったらできるようになったの?」

○よい動き (知識及び運動) の捉え方として、「動きのこつ」と「行い方の工夫」の違いを明確にした価値付け
例: 「フープを回しながら移動するときのこつは何?」
例: 「フープを回しながらスキップもできるんだね!」

○学び方 (学びに向かう力, 人間性等や思考力, 判断力, 表現力等にかかわること) の価値付け
例: 「友達のかわいい動きを見合っていていいね!」
例: 「他にもかわいい動きをしている友達がいたら教えてね!」

学びを価値付ける時間の内容(重点) 第3学年: フープの例

※「学びを価値付ける時間」で**重点**として共有し、全体の学びとして価値付けていく。

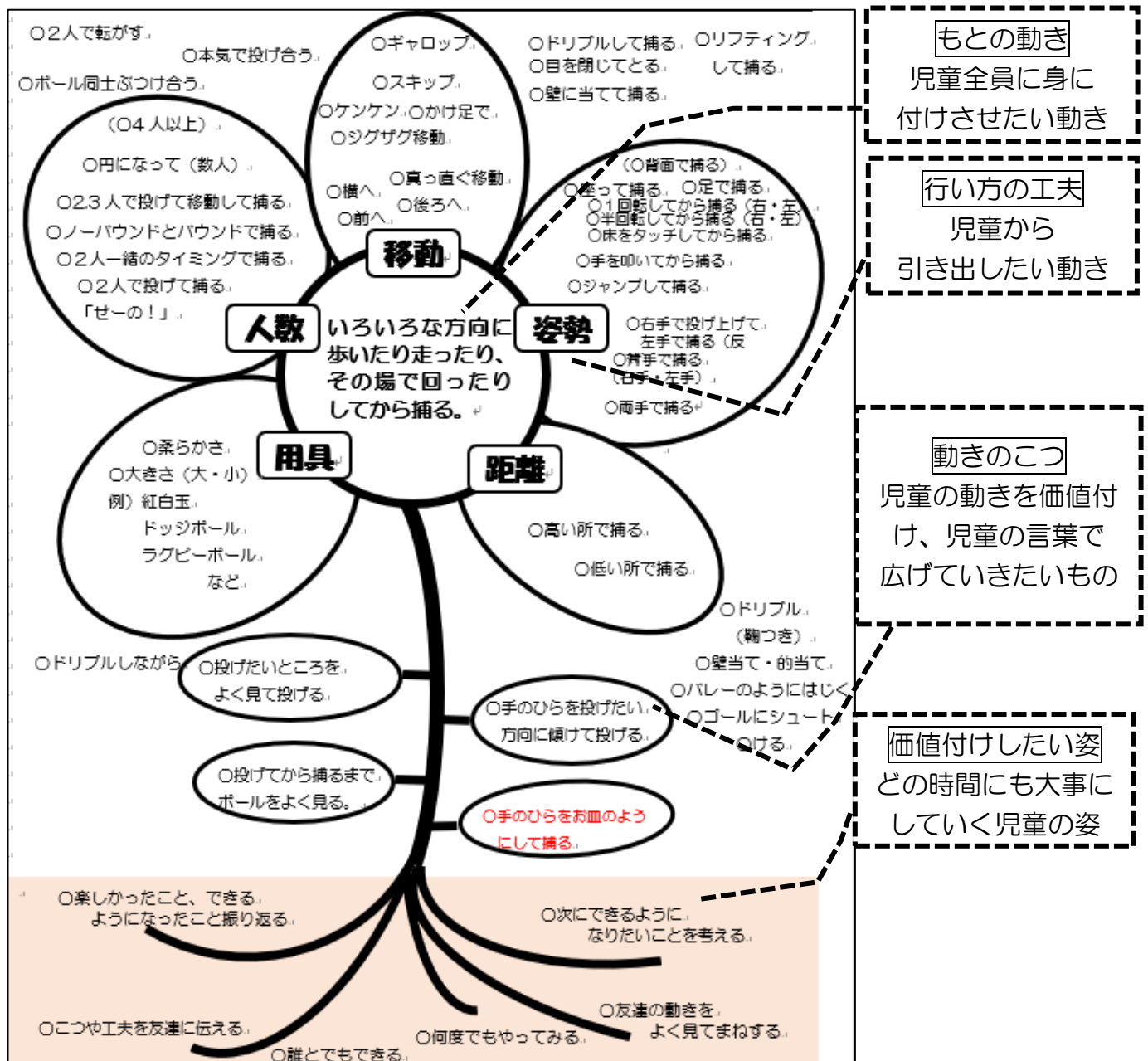
序 盤 (やってみる) → 中 盤 (工夫する) → 終 盤 (工夫する)

	行い方の工夫	動きのこつ
<p style="text-align: center;"><u>価値付けしたい姿 (学び方)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 1 一生懸命、運動に取り組もうとしている。 2 何度も繰り返しフープを回したり、転がしたりしている。 3 態度面 (話を聞く姿勢、友達と運動を楽しんでいる、できなくてもできなくても何度も運動をやっている) 4 きまりを守り、友達と仲よく励まし合っている。 5 協力して、準備や片付けをしている。 	<p style="text-align: center;"><u>回す</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 3 回す+移動の工夫 (歩き、ケンケン、後ろ歩き、スキップ、横歩き、ジグザク、後ろ) 4 回す<行い方の工夫>+移動 (右手、左手、足、後ろ向き、2人組、リズムを変えて) <p style="text-align: center;"><u>転がす</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 4 転がす+移動の工夫 (スキップ、横歩き、ケンケン) 5 転がす<行い方の工夫>+移動 (右向き、左向き、バックspin、くぐる、とぶ) 	<p style="text-align: center;"><u>動きのこつ</u></p> <p>※動きのこつを言語化させる。</p> <p>「フープを回しながら・スキップするとき、なんか上にいくときに同時に手と足を動かすことができるよ!」</p>

学びを価値付ける時間の質を上げ、指導の充実を図る。そのために「授業ヒントシート」の「よい動きの花」を活用する。教師がこの資料を基に授業を振り返り、全体的な児童の学習状況を把握し、授業改善を行っていく。

【「よい動きの花」の使い方】

- ①本時での児童の学習状況を振り返り、全体的にめあてを達成していたか振り返る。
- ②よい動きの花シートをもとに、本時で出現した動きやこつなどを整理する。
- ③本時で未達成な部分は何か、またその原因を考える。そして、次時の授業で取り上げたい動きやこつを価値付ける時間に価値付けしたい内容を決める。



②教師の言葉掛け

児童が自分のめあてに沿って運動に取り組む中で、教師は意図的にねらいに沿った一貫した言葉掛けを行う。これにより、児童は意欲を持続させたり、自らの課題を修正したりすることができる。

本部会作成の「授業ヒントシート」を活用し、運動が得意な児童や苦手な児童それぞれへ適切な言葉掛けを行う。苦手な児童に対しては、できそうな動きを選択させたり、違う行い方をすすめてみたりする。得意な児童については、こつを言語化させ、「学びを価値付ける時間」で取り上げる児童を探しておく。教師の意図的な価値付けにより、児童相互の関わり合いを活性化させ、できたを目指し、更なる主体的な学習を促していく。

得意な児童にはこうしよう！

知識及び運動

●こつ（葉）を意識させる

- フープを後ろから前になでるように転がす
- フープをまっすぐ立てて、ねらいを定める
- フープの横に立つ
- 転がしたい距離や速度に合わせて、強さを調整する
- ◎転がしてから移動する
- ◎転がるフープのスピードに合わせて移動する
- ◎前に跳び越す
- ◎先回りして待ち、低い姿勢で勢いよくくぐる

●行い方の工夫（花びら）を広げる

- 人数を増やして
「友達と一緒にやってみよう。」
- 姿勢や向きを変えて
「腕（腰や足）でも回せる？」
- 用具を変えて
「違う大きさのフープでもできる？」
- ◎移動の仕方を変えて
「後ろ向きにも進めるかな。」
- ◎自分で転がしてくるかな？」

思考力・判断力・表現力等

●こつ（葉）を見つけさせる

- 「どうしたら、もっと上手にできるかな？」
- 「〇〇さんは、どうしてあんなに上手にできているのかな？」

●こつ（葉）を意識させる

- 「〇〇さんが紹介してくれたこつをやってみよう。」
- 「友達に何を教えてもらったらできたの？」

●行い方（花びら）を工夫させる

- 「〇〇さんは、こんな動きをしていたよ。」
- 「～な動きはできるかな？」

学びに向かう力・人間性等

●他者に伝える力をつける

- 「〇〇さんができるようにするには何て伝えてあげたらいい？」
- 「〇〇さんと□□さんは、アドバイス合っていていいね。」
- 「〇〇さんにもこつを教えてあげよう。」

●仲間の取組を認めさせる

- 「〇〇さんの動きのいいところはどこだろう。」



苦手な児童にはこうしよう！

知識及び運動

●こつ（葉）をつかませる言葉掛け

- フープを転がすことができない
- 「一緒に転がしてみよう。先生（友達）とフープを押さえて、後ろから前になでるように転がそう。」
- 「フープの横に立ってみよう。」
- ◎フープを転がしながら、転がしたフープの中をくぐり抜けたり、跳び越したりできない
- 「まずは、転がしてから移動してみよう。」

●できそうな動きを選択させる。

- 姿勢や向きを変えて
- 「一度、体を横向きにして転がしてみよう。」
- 用具を変えて
- 「小さな（大きな）フープに変えてみよう。」
- 移動の仕方を変えて
- 「後ろ移動できるかな？」
- 「自分で転がしてくるかな？」
- *フープの大きさ、重さ、などを変えて動きを易くするなど配慮する

思考力・判断力・表現力等

●行い方を修正させる

- 「〇〇さんの動きを見てみよう。」
- 「友達の真似してみよう。」
- 「もう少し～すると、かっこいい（上手な）動きになるよ。」
- 「やさしい動きからやってみよう。」

●こつ（葉）を見付けさせる

- 「〇〇さんの動きを見てごらん。」
- 「〇〇さんは、どうしてあんなに上手にできているのかな？」



学びに向かう力・人間性等

●仲間の取組を認めさせる。

- 「〇〇さん、～さんがとっても上手に回しているよ、一緒にやってみよう。」
- 「失敗しても諦めない〇〇さん、かっこいい！」（本人に対して）
- 「〇〇さんは何度もチャレンジしているね。」（周りに目を向けさせる。）
- 「誰とでも仲良くできる〇〇さん、すてき！」

*友達と一緒に運動（遊び）に取り組むことで、気持ちが弾んでくることを実感させたり、意欲が感じられたりするつぶやきや動きを取り上げて共感する。

③学習カードを活用した振り返りの充実

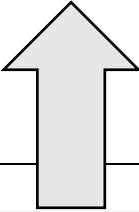
学習カードを活用して、児童が自己の状態を自覚し、課題を修正したり新たな課題を設定したりする課題解決のプロセスを繰り返すことが大切である。そのために本部会では、以下の2点が重要と考える。

1点目は、振り返る視点の重点化である。本時のねらいに応じて児童に振り返る視点（序盤…「学びに向かう力、人間性等」、中盤…「思考力、判断力、表現力等」、終盤…「知識及び技能」）を提示し、記述させることである。

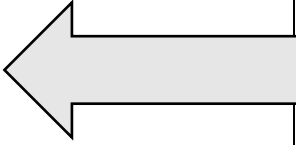
2点目は、教師のフィードバックである。教師は、授業中に見取った児童の姿や学習カードの記述内容に応じて、「授業ヒントシート」を参考にし、意図的なフィードバックをする。

このように振り返りの充実を行い、更に児童の主體的・協働的な学びにつなげようと考えた。

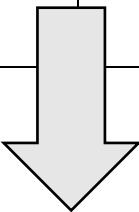

(ア) 主体的に取り組んでいるが、運動の技能が高まらない児童へのフィードバック例

<p>【思】△</p>	<p>【運】×</p>
	
<p>まず、態度面を認めて称賛することで意欲を持続できるようにする。次に、次時に向けて課題を解決するための方向付けになるコメントをする。</p>	
<p>【主】○</p> <p>児 楽しかった！もっとがんばって、いろいろできるようになりたい！</p> <p>教 何度もチャレンジしていてすばらしい！上手な友達を見つけてコツを教えてもらえると、いろいろできるようになるね♪</p>	

(イ) 運動の技能は高いが、思考・判断・表現を働かせない児童へのフィードバック例

<p>【思】×</p>	<p>【運】○</p> <p>児 ○○の動きができた！いろいろとできた！</p> <p>教 とっても上手だったよ！どうやったらできるのか「コツ」が分かったら教えてね♪</p>
	
<p>【主】○</p> <p>まず、できたことを称賛して意欲を持続できるようにする。次に、コツを言語化できるように助言する。</p>	

(ウ) 運動の技能は高いが、主体的に取り組めていない児童へのフィードバック例

<p>【思】△</p> <p>まず、運動面を称賛し、態度面が高まるように、協働的な学びを促すコメントをする。</p>	<p>【運】○</p> <p>児 ○○の動きをやったらできた。</p> <p>教 お手本のように上手です！Aさんに教わったら、みんなできるようになりそうだね♪</p>
	
<p>【主】×</p>	
<p>まずはがんばりを認め称賛することじゃ。その次に、道を示し、3観点をバランスよく育むぞい！</p> 	

(3) 授業のベースをつくるための手だて

①楽しさの散りばめ

一単位時間の中に多様な動きをつくる運動（遊び）部会が考える「楽しさエキス」を授業の中に散りばめていく。授業では主に①学習環境（単元設定、場、用具、教材の工夫）、②学習に勢いを生む導入、③歌遊び、④合言葉など、児童が夢中になって運動遊びや運動に取り組めるような「楽しさ」を一単位前半の中で散りばめていく。児童の「やってみたい!」「もっとやってみたい!」という運動欲求に火をつけるための仕掛けと考えている。

<p style="text-align: center;">①学習環境</p> <p>【わくわくするような単元設定 掲示物の例】</p>  <p>※単元設定や教材、場、用具などを工夫して、楽しい雰囲気をつくることで、児童の運動欲求に火をつける。</p>	<p style="text-align: center;">②学習に勢いを生む導入</p> <p style="text-align: center;">心と体をスイッチオン!</p> <p>☆端的な指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い言葉で指示・説明（運動量の確保） ・活動と活動のつなぎ（体じゃんけんの活用） <p>☆解放感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは先生と楽しく、色々な動きを楽しむ ・友達同士が関わる動き（2人組、ハイタッチ） <p>☆動きの要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンプ、スキップ、ダイナミックな動き <p>☆音楽・リズム太鼓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BGMを活用した準備運動、場の準備・片付け等
<p style="text-align: center;">③歌遊び</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>「幸せなら手を叩こう」（座る・立つ）</p> <p>♪ 幸せなら手を叩こう ♪ 幸せなら手を叩こう</p> <p>♪ 幸せなら 背中をつけようよ～</p> <p>♪ ほらみんなであって（すわって）みよう</p> <p>せーの!</p> <p>※二人組で背中をくっつけたまま立ったり座ったりする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">「人工衛星」</p> <p>♪ 人工衛星 人工衛星 と～ま～れ</p> <p>※4～5人で手をつなぎ、引っ張り合って相手を動かす。</p> </div> <p>※歌の中に身に付けさせたい動きを取り入れ、リズムの楽しさを味わいながら効率的に運動できるようにする。</p>	<p style="text-align: center;">④合言葉</p> <p style="text-align: center;">いつでも どこでも だれとでも!</p> <p>☆活動に勢いをつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇へ レッツゴー!」 ・「やってみよう!」 <p>☆楽しい雰囲気のまま指示を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トントトン トントトン 聞いて」 ・「お友達を変えて お友達を変えて〇人組」 <p>☆みんなで友達を称賛する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「せ～の」 パンパン ナーイス!! ・「せ～の」 キラーン!! ・「ワッショイ!」

②伝え合う活動の充実

学習指導要領には、本部会が重視する「学びに向かう力、人間性等」の中に、「共生」の視点が明記されている。本部会では、児童同士が関わり合って学習する力を育むために、低学年から「共生」の素地を養いたいと考え、「伝え合う活動」の在り方について検討した。教師が価値付けていく「伝え合う活動」の段階は、次の2つと考えた。

(1) 認め合う雰囲気づくり

児童が運動に関心をもち、意欲的に取り組むことができるよう、学習に向かう力を中心に認めて称賛する。運動に対して積極的な児童を取り上げて価値付けることで、運動に対して意欲的ではない児童にも運動の楽しさや学び方、安心感などを知り、体感できるよう方向付ける。誰とでも仲よく、友達のことを認め合える「共生」の素地を養う。

- 例)
- ・素早く並ぶことができる。
 - ・用具などを進んで準備したり片付けたりしている。
 - ・友達と仲良く関わろうとしている。
 - ・一生懸命運動をしている。
 - ・できなくても、何度も取り組んでいる。

称賛を中心に、
価値付けたい姿を全体で共有する。



認め合う雰囲気をつくり「共生」の素地を養うことで、肯定的で楽しい学習環境となる。こうした取組を積み重ねることによって、「考えたことを他者に伝える」能力を育むことにつながると考えた。

(2) ① 低学年の目指す姿

友達の動きを全体で取り上げ、称賛することで、児童が他者の行動を意識するように仕掛ける。「すごい!」「かっこいい」など、「やってみたい」から動きが広がるようにしていく。また、なかなか友達を意識しない児童には、教師の意図的な価値付けや言葉掛けにより、意識できるよう支援をする。



(2) ② 中学年の目指す姿

動きのこつをつかんでいる児童や行い方の工夫をしている児童を取り上げ、全体で共有する。自分が見つかったこつを友達に伝えたり、こつを友達に聞いたりする。さらに、行い方を工夫したことで変化する動きのこつを友達に伝え、自分のこつを言葉で表現する。これらの姿を価値付けることで、体のどの部位に着目すればよいのか、動きにどんな広がりがあるかを知ることにつながる。児童が友達のよい動きを真似することを通して、基本的な動きを身に付けていくことを目指す。



第4学年体育科学習指導案

日 時：令和元年 10 月 15 日（火）
13：35～14：20

場 所：墨田区立業平小学校 体育館
学 級：第4学年1組 29名
指導者：森田 慎

（1）単元計画

知識及び運動	多様な動きをつくる運動の行い方を知ることができるようにするとともに、体のバランスをとったり、移動をしたり、用具を操作したり、力試しをしたり、それらを組み合わせて運動したりすることができるようにする。
思考力, 判断力, 表現力等	自己の課題を見付け、その課題を解決するために様々な運動の行い方を選んだり、友達と一緒に運動したり、考えたことや見付けたことを友達に伝えたりすることができるようにする。
学びに向かう力, 人間性等	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでもなかよく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

（2）単元の評価規準

観点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
知識・技能	多様な動きをつくる運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けている。	①多様な動きをつくる運動の楽しい行い方を知っている。 ②多様な動きをつくる運動の楽しい行い方が分かる。 ③基本的な動きやそれらを組み合わせた動き、各種の運動の基礎となる動きができる。
思考・判断 ・表現	自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。	①用具操作の仕方や行う人数など、より楽しく運動ができ、様々な動きを身に付けることができる行い方を選んでいる。 ②基本的な動きを身に付けたり高めたりするために、友達の運動の行い方を比べるなどして、自己の課題を見付けている。 ③これまでの学習で経験した運動の中から、みんなで行うと楽しくなる運動や基本的な動きを身に付けるためのコツを伝えている。
主体的に学習に 取り組む態度	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。	①多様な動きをつくる運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、「いつでもどこでも誰とでも」励まし合って運動しようとしている。 ③友達と協力して用具の準備・片付けをしようとしている。 ④友達の考えや取組を認めようとしている。 ⑤運動する場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。

(3) 学習過程

時間	13	14	15	16	17	18 (本時)
段階	序盤	中盤	終盤		終盤	
学習内容・活動	○力試しの運動 (押す、引く、力比べ、運ぶ、支える、ぶら下がるなど)				○いろいろな運動 (バランス、移動、力試し)	
	○用具を操作する運動(短なわ・長なわ) ○基本的な動きを組み合わせる運動 ・移動しながら跳ぶ ・跳びながらバランスをとる				○用具を操作する運動 ○基本的な動きを組み合わせる運動 (ボール、フープ、短なわ、長なわ) もう一度取り組みたい用具を選ぶ	
	○学びを価値付ける時間 ○もう一度取り組む時間 ○振り返り					

(4) 運動の特性

- 体のバランスをとったり移動したりする動きや用具を操作したり力試しをしたりして体の基本的な動きを培う運動である。
- いろいろな運動を通して、動くこと自体の楽しさや心地よさを感じる運動である。
- 夢中になって運動に取り組むことで楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- 友達と一緒にになって運動に取り組むことで楽しさや喜びを感じることができる運動である。
- 運動の行い方を工夫したり、新しい動きを考えたりしたときに楽しさを味わうことができる運動である。
- 易しい動きから難しい動きができるようになることで、喜びを感じることでできる運動である。

(5) 単元の指導と評価の計画

時 段	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
序 盤	序 盤	序 盤	序 盤	中 盤	終 盤	序 盤	中 盤	終 盤	序 盤	中 盤	終 盤	序 盤	中 盤	中 盤	終 盤	終 盤	終 盤	終 盤		
時 段	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
	序盤	序盤	序盤	中盤	終盤	序盤	中盤	終盤	序盤	中盤	終盤	序盤	中盤	中盤	終盤	終盤	終盤	終盤		
指導 内容	体づくりの運動 ○一人でできる運動 ・いろいろなウォーキング リズムに合わせて移動し て、すれ違った友達とハ イタッチをする。 ・五秒寝	○2～3人でできる 手軽な運動 ・ペアでストレッチ 体を伸ばしたり、呼吸 を整えたりして、体の 調子に気付く。 ○グループでできる 手軽な運動 ・風船運び グループで手をつな ぎ、風船を落とさずゴ ールを目指す。 ○全員でできる手軽 な運動 ・たるまさんが止まった 「たるまさんが・・・」と言 うやりわりのボール遊び、教 師がボールを持っている時 はストップ、ボールが手から 離れれば移動できる。ゴ ールまでどり着けるよう にグループで協力する。	○体のバランスをとる運動 「回る、まがる、起きる、座る、立つ、差すなどの動きやバランスを保つ などの動き」 ○体を移動する運動 「走る、歩く、走る、跳ぶ、はねる、登る、下りるなどの動き」 ○基本的な動きを組み合わせた運動 「バランスをとる動きや移動する動き」	○用具を操作する運動 「竹馬・一輪車・大きなボール」 「用具に乗る動き」	○用具を操作する運動 「用具をつかむ、持つ、降ろす、 回す、はさんで運ぶ」	○用具を操作する運動 「ボール」 「ボールを操作する動き」 「ボールを操作する動き」 「ボールを操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」	○用具を操作する運動 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」 「用具を操作する動き」
知識 技能																				
思考 判断 表現																				
主体的な 学習																				
評価の 重点																				

(6) 一単位時間の流れ

第4学年「多様な動きをつくる運動」(17/18時間)

① 本時のねらい

【思考力, 判断力, 表現力等】これまでの学習で経験した運動の中から、みんなで行うと楽しくなる運動や基本的な動きを身に付けるためのコツを伝えることができるようにする。

② 本時の展開

学習活動	○指導のポイント ○配慮児童への支援	☆評価			
<p>1 学習の流れ、めあての確認をする。</p> <p>「できるようになりたい」「上手になりたい動き」に友達と教え合いながら取り組もう。</p> <p>2 準備運動をする。</p> <p>♪夏祭り</p>	<p>○児童に学習の見通しをもたせるために、学習の流れと本時のめあてを掲示する。</p> <p>○前時のよかった姿から、価値付けたい内容を三観点で紹介する。</p> <p>○心と体をスイッチオンするために、音楽に合わせて体を動かすようにする。</p>				
<p>3 「バランスをとる運動」「移動する運動」「力試しの運動」「用具を操作する運動」に取り組む。</p> <p><じゃんけんすごろく></p> <p>①ケンステップコース ②フリーランコース ③川跳びコース ④ボール運びコース ⑤手押し車コース ⑥平均台コース</p>	<p>○進んで用具を準備したり、安全に気を付けたりしている児童を称賛する。</p> <p>○1つ1つの動きが雑にならないように、その場ごとのよい動きを称賛する。</p> <p>○指示がなく児童が次の行動に移れるように、片付けのタイミングで音楽を使用する。</p> <p>◎うまくいかない児童には、友達のよい動きを真似したり、動きのポイントについて言葉掛けをしたりする。</p>				
<p>4 「用具を操作する運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」の中から行いたい動きを選んで取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フープ (回す・転がす) ・短なわ、長なわ (跳ぶ) ・組み合わせ (用具操作+移動) (用具+用具) <p><運動をする場 (体育館)></p> <table border="1" data-bbox="145 1301 555 1451"> <tr> <td>長なわ</td> <td>短なわ</td> <td>フープ</td> </tr> </table> <p><学びを価値付ける時間①> それぞれの場でよい動きを共有する</p> <p><もう一度取り組む時間></p>	長なわ	短なわ	フープ	<p>やってみる時間</p> <p>「今日は自分をもっとできるようになりたい動きや上手になりたい動きに取り組もう」</p> <p>○場の安全に気を付けて運動するよう言葉掛けをする。移動の工夫が出た場合は方向を指定する。</p> <p>○進んで友達と関わり合おうとしている児童を称賛する。</p> <p>学びを価値付ける時間</p> <p>「すごい動きにチャレンジしている友達を紹介するよ」</p> <p>「どうやったらそんなに上手にできるのかコツを教えて」</p> <p>○少し難易度の高い動きを紹介し、そのコツを共有することで、コツを伝え合いながら取り組むことの必要性を強調する。</p> <p>もう一度取り組む時間</p> <p>「友達とコツを伝え合いながら取り組むとさらに動きが上手になるね」</p> <p>○もう一度取り組んでいる時間に、友達と関わりながら運動をしている児童を称賛する。</p> <p>○場や用具を変えてもよいことを伝える。</p> <p>◎苦手な児童には友達に目を向けさせたり、友達と一緒に運動したりするよう言葉掛けをする。</p> <p>◎動きが上手な友達から苦手な友達にコツを伝えるよう促す。</p>	<p>☆これまでの学習で経験した運動の中から、みんなで行うと楽しくなる運動や基本的な動きを身に付けるためのコツを伝えている。</p> <p>【思考・判断・表現】(観察・学習カード)</p>
長なわ	短なわ	フープ			
<p>5 後片付け、整理運動をする。</p> <p>♪ディズニーオルゴールメドレー</p> <p>6 振り返りをする。</p>	<p>○心と体を落ち着かせながら、使った部位をほぐすために、音楽をかけてクールダウンする。</p> <p>○本時のねらいに沿った内容の記述を引き出すために、本時のめあてや授業の様子を振り返る言葉掛けをする。</p>				

本時

第4学年「多様な動きをつくる運動」(18/18時間)

① 本時のねらい

【知識及び運動】基本的な動きやそれらを組み合わせた動きができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】多様な動きをつくる運動に進んで取り組むことができるようにする。

② 本時の展開

学習活動	○指導のポイント ◎配慮児童への支援	☆評価			
<p>1 学習の流れ、めあての確認をする。</p> <p>できる動きを増やそう！ 動きをより上手にしよう！</p> <p>2 準備運動をする。</p> <p>♪夏祭り</p>	<p>○児童に学習の見通しをもたせるために、学習の流れと本時のめあてを掲示する。</p> <p>○前時のよかった姿から、価値付けたい内容を三観点で紹介する。</p> <p>○心と体をスイッチオンするために、音楽に合わせて体を動かすようにする。</p>				
<p>3 「バランスをとる運動」「移動する運動」「力試しの運動」「用具を操作する運動」に取り組む。</p> <p><じゃんけんすごろく></p> <p>①ケンステップコース ②フリーランコース ③川跳びコース ④ボール運びコース ⑤手押し車コース ⑥平均台コース</p>	<p>○進んで用具を準備したり、安全に気を付けたりしている児童を称賛する。</p> <p>○1つ1つの動きが雑にならないように、その場ごとのよい動きを称賛する。</p> <p>○指示がなく児童が次の行動に移れるように、片付けのタイミングで音楽を使用する。</p> <p>◎うまくいかない児童には、友達のよい動きを真似したり、動きのポイントについて言葉掛けをしたりする。</p>				
<p>4 「用具を操作する運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」の中から行いたい動きを選んで取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フープ（回す・転がす） ・短なわ、長なわ（跳ぶ） ・組み合わせ（用具操作+移動） （用具+用具） <p><運動をする場（体育館）></p> <table border="1" data-bbox="145 1272 555 1424"> <tr> <td>長なわ</td> <td>短なわ</td> <td>フープ</td> </tr> </table> <p><学びを価値付ける時間①> それぞれの場で人数や移動の工夫とそのこつを共有する</p> <p><もう一度取り組む時間></p>	長なわ	短なわ	フープ	<p>やってみる時間</p> <p>「今日はいろいろな動きにチャレンジして、できる動きを増やそう」</p> <p>○場の安全に気を付けて運動するよう言葉掛けをする。</p> <p>○進んで友達と関わり合おうとしている児童を称賛する。</p> <p>学びを価値付ける時間</p> <p>「いろいろな動きにチャレンジしている友達がいるから紹介するよ」</p> <p>○同じ用具でもいろいろな行い方があることを強調し、できる動きを増やすことを強調する。</p> <p>もう一度取り組む時間</p> <p>「紹介された動きにも取り組んでみよう」</p> <p>○もう一度取り組んでいる時間に、友達と関わりながら運動をしている児童を称賛する。</p> <p>○場や用具を変えてもよいことを伝える。</p> <p>◎苦手な児童には友達に目を向けさせたり、友達と一緒に運動したりするよう言葉掛けをする。</p> <p>◎動きが上手な友達から苦手な友達にこつを伝えるよう促す。</p>	<p>☆多様な動きをつくる運動に進んで取り組んでいる。【主体的に学習に取り組む態度】（観察・学習カード）</p> <p>☆基本的な動きやそれらを組み合わせた動きができる。【知識・技能】（観察・学習カード）</p>
長なわ	短なわ	フープ			
<p>5 後片付け、整理運動をする。</p> <p>♪ディズニーオールゴールメドレー</p> <p>6 振り返りをする。</p>	<p>○心と体を落ち着かせながら、使った部位をほぐすために、音楽をかけてクールダウンする。</p> <p>○本時のねらいに沿った内容の記述を引き出すために、本時のめあてや授業の様子を振り返る言葉掛けをする。</p>				

多様ガイドブック (基礎編)

東京都
小学校体育研究
会
Reiwa 5

多様な動きを
つくる運動遊びの
領域部会



はじめに

☆一単位時間ごとに授業で大切にすることを明確にし、ねらいにあった授業ができるようにしましょう！
(指導と評価の一体化)

☆「授業の様子(QRコード)」の見方

児童の何を見取って、どんな言葉掛けをしているか
何を価値付けているか(いつ、どこで、だれを、どのように)

を意識しながら、授業のイメージをもとう！

☆授業後は、児童の授業内での様子や効果的な教師の言葉掛け、価値付けができていたかを振り返り、次時の授業イメージを考えよう！

児童の「やってみる」を大切にしよう！

学びに向かう力、人間性等

第一時

- ・児童の運動との出会いを大切に、やってみることをたくさん称賛しよう。

価値付け

- ・進んで運動している児童の姿を価値付けよう。
- ・誰にでも簡単にできる行い方と動きのこつを価値付けよう。



児童の「できるようになりたい」を大切にしよう！

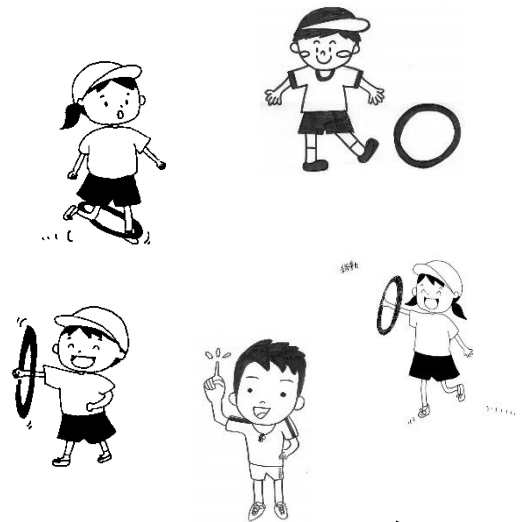
思考力、判断力、表現力等

第二時

- ・児童ができるようになりたい動きに取り組んでいることをたくさん称賛しよう。
- ・行い方の工夫や動きのこつを引き出そう。
- ・友達と行い方の工夫や動きのこつを伝え合っている児童を称賛しよう。

価値付け

- ・行い方の工夫（用具操作+移動）をしている児童の姿や動きのこつを価値付けよう。
- ・友達の動き（行い方の工夫、動きのこつ）を真似したり、取り入れたりして、運動している児童の姿を価値付けよう。
- ・友達と行い方の工夫や動きのこつを伝え合っている児童の姿を価値付けよう。



第三時

児童の「できた」「わかった」を大切にしよう！

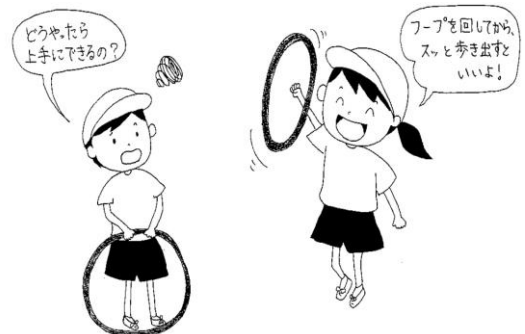
知識及び運動
学びに向かう力、人間性等

第四時

- ・児童ができるようになりたい動きに取り組んでいることをたくさん称賛しよう。
- ・友達と行い方の工夫や動きのこつを伝え合っている児童を称賛しよう。
- ・単元を通して、動きの質が高まっている児童を称賛しよう。

価値付け

- ・友達と行い方の工夫や動きのこつを伝え合っている児童の姿を価値付けよう。
- ・友達との活動で自分の気付きを伝え合っている児童の姿を価値付けよう。
- ・第1時から第4時を通して、動きの質が高まった児童の姿を価値付けよう。



～児童の「やってみる」を大切にしよう！～

- ① 児童と運動との出会いを大切に、やっていることを称賛しよう。
- ② 進んで運動している児童を価値付けよう。
- ③ 誰にでも簡単にできる行い方と動きのこつを価値付けよう。

（一単位時間の流れ 前半）

体のバランスをとる運動、体を移動する運動、力試しの運動（※単元計画・運動遊び例集 参照）

体のバランスをとる運動（例）・・・じゃんけんすごろく

体を移動する運動（例）・・・UFO、陣取りじゃんけん

力試しの運動（例）・・・俵返し

用具を操作する運動、基本的な動きを組み合わせる運動

一単位時間の流れ（後半）	授業の様子（QRコード）	価値付けたい児童の具体的な姿
やってみる	 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動欲求に火をつけ、児童の運動との出会いを大切にしよう！ ・運動している中からねらいに沿った動きを褒め全体に伝えよう！ 	<p>態度面 （話を聞く姿勢、友達と運動を楽しんでいる、できてもできなくても何度も運動をやっている）</p> <p>行い方+動きのこつ →価値付けガイド、動きの花を参考にしながら</p> <p>回す+動きのこつ （右手、左手、腰、足、首、ひざ、右手⇄左手） ※回し方のこつも合わせて価値付ける。</p> <p>転がす+動きのこつ （片手、両手、一回転して、タッチして、手をたたいて、高いところで、低いところで） ※回し方のこつも合わせて価値付ける。</p>
学びを価値付ける時間	 <ul style="list-style-type: none"> ・「動きのこつ」や「行い方の工夫」、「学び方」を価値付けよう！ ・「学びを価値付ける時間」の回数は学習のねらいや児童の学習状況によって変える。 	
もう一度やってみる	 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習状況を把握しよう！ ・「学びを価値付ける時間」で児童全体に共有したことを行っている児童をたくさん価値付けよう！ 	
学びを価値付ける時間	 <ul style="list-style-type: none"> ・「動きのこつ」や「行い方の工夫」、「学び方」を価値付けよう！ ただし、1回目の「学びを価値付ける時間」で取り上げなかったことを価値付けよう！ 	
もう一度やってみる	 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習状況を把握しよう！ ・「学びを価値付ける時間」で児童全体に共有したことを行っている児童をたくさん価値付けよう！ 	
ふり返り	 <p>学習カードを使おう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習状況（指導のねらいがどの程度、達成しているか）を把握しよう！ ・児童に何ができるようになったかを意識させて書かせよう！ 	

～児童の「できるようになりたい」を大切にしよう！～

- ① 児童ができるようになりたい動きに取り組んでいることをたくさん称賛し、行い方の工夫（用具操作＋移動）や動きのこつを引き出そう。
- ② 行い方の工夫と動きのこつを合わせて価値付けよう。
- ③ 友達と行い方の工夫や動きのこつを伝え合っている児童を称賛し、価値付けよう。

（一単位時間の流れ 前半）

体のバランスをとる運動、体を移動する運動、力試しの運動（※単元計画参照、参考）

用具を操作する運動、基本的な動きを組み合わせる運動

-単位時間の流れ(後半)	授業の様子 (QRコード)		価値付けたい児童の具体的な姿
やってみる		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「できるようになりたい」思いを大切に、運動欲求を持続させよう！ ・運動している中からねらいに沿った動きを褒め全体に伝えよう！ 	<p>共生の素地 （認め合い、見合い、教え合い）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に声掛けをしている。 ・友達の動きをまねしている。 ・友達のよい動きを見つけている。 ・動きのこつや行い方の工夫を取り入れている。 ・友達に行い方の工夫や動きのこつを聞いている。 ・友達に動きのこつを教えている。 <p>行い方(用具操作＋移動)＋動きのこつ</p> <p>回す＋移動の工夫 （歩く、ケンケン、後ろ歩き、2人組、リズムを変えて）</p> <p>転がす＋移動の工夫 （スキップ、横歩き、ケンケン）</p> <p>転がす(行い方の工夫)＋移動 （右向き、左向き、バックスピン、ぐる、とび）</p> <p>※こつも合わせて共有する。</p>
学びを価値付ける時間		<ul style="list-style-type: none"> ・「動きのこつ」や「行い方の工夫」、「学び方」を価値付けよう！ ・「学びを価値付ける時間」の回数は学習のねらいや児童の学習状況によって変える。 	
もう一度やってみる		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習状況を把握しよう！ ・「学びを価値付ける時間」で児童全体に共有したことを行っている児童をたくさん価値付けよう！ 	
学びを価値付ける時間		<ul style="list-style-type: none"> ・「動きのこつ」や「行い方の工夫」、「学び方」を価値付けよう！ ただし、1回目の「学びを価値付ける時間」で取り上げなかったことを価値付けよう！ 	
もう一度やってみる		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習状況を把握しよう！ ・「学びを価値付ける時間」で児童全体に共有したことを行っている児童をたくさん価値付けよう！ 	
ふり返り		<p>学習カードを使おう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習状況（指導のねらいがどの程度、達成しているか）を把握しよう！ ・児童に何ができるようになったかを意識させて書かせよう！ 	